極楽 ― 北陸の浄土教美術 ―

●会場　2階　企画展示室
●会期
【前期】平成17年3月26日(土)～4月17日(日)
【後期】平成17年4月19日(火)～5月8日(日)
〈休館日 4月18日(月)〉

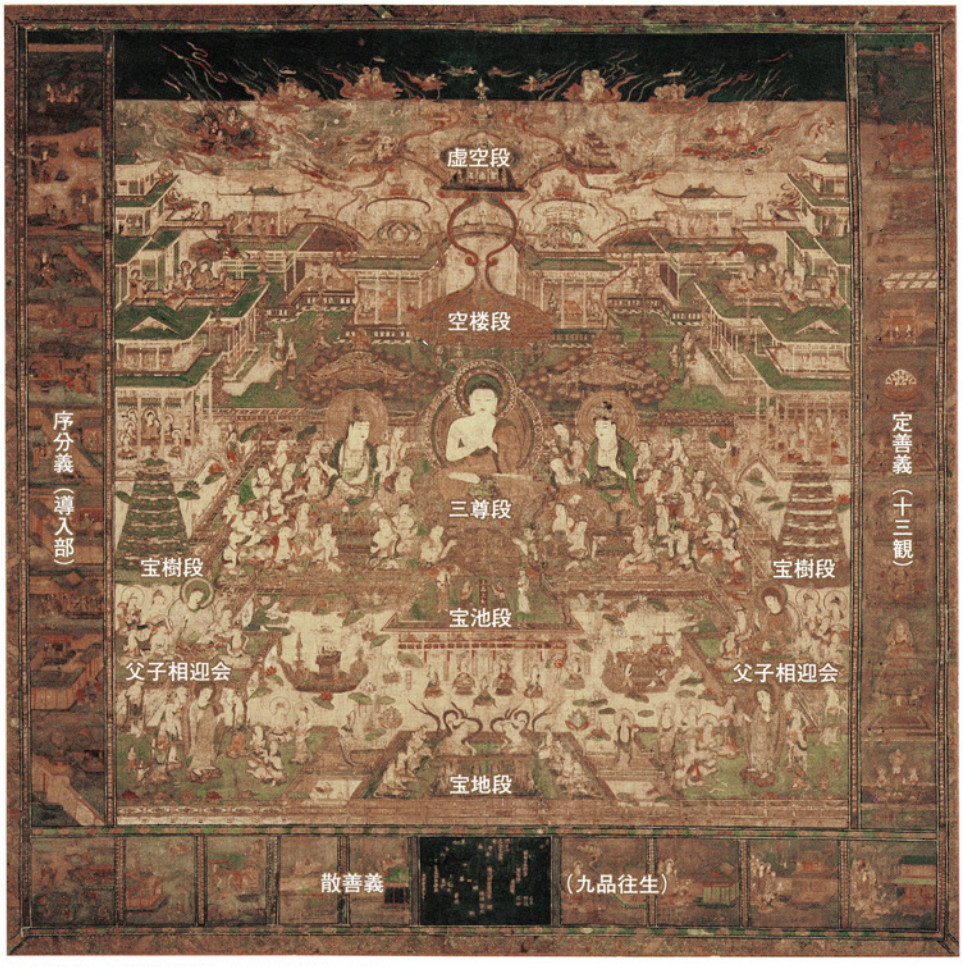
中世を生きた人々は、飢饉や疫病の流行、戦乱や政治不安など厳しい時代の中で、ただひたすらに極楽往生を目指しました。

極楽へ往生するには、極楽世界の景色や、阿弥陀如来が自分を迎えに来られる様子を思い描くことが大切とされました。そのために描かれたのが、当麻曼荼羅や来迎図です。阿弥陀如来に救いを求める切実な願いや極楽への憧れは、様々に表現された作品にあふれています。本展では、それら浄土教美術の中から北陸に関わる名品を一堂に集め、平安時代から室町時代の浄土教の広がりとその美術を、北陸という地域の特色を念頭に置きながら見ていきます。

1 描きつがれた西方極楽浄土

安らかで楽しみに満ち、患いや苦しみとはまったく無縁の世界――そんな世界の存在は、絵画となったことで誰もが等しく観ることができるようになり、多くの人々の信仰を得ました。

阿弥陀仏の浄土「極楽」の壮麗なるありさま、阿弥陀如来のすがたなどを、目に見える世界として説く『阿弥陀経』『無量寿経』は、インドから中国、日本へともたらされました。それは同時に極楽の具体的なイメージも伝え、造形表現の基盤となったのです。その後、極楽浄土を心の中に観ずる方法を説く『観無量寿経』が出現し、極楽は「観経変相図」として描き表わされ、広く流布することとなりました。鎌倉期以降、わが国において観経変相図の規範とされ、描き継がれた当麻曼荼羅は、その一つの完成形ともいえるものです。



重要文化財　当麻曼荼羅　福井県敦賀市　西福寺

当麻曼荼羅

『観無量寿経』の内容を絵画化した阿弥陀浄土図（観経変相図）の一種。画面の中心に阿弥陀浄土の景観、周縁に極楽を想い描く方法（観想）を表す。奈良・当麻寺に伝来する奈良時代の遺品をもとに作られた。

■右縁―序分義　観経六縁
息子の阿闍世王に幽閉された韋提希夫人が釈迦に極楽へ生まれる方法を尋ねるまでの物語

■左縁―定善義　十六観のうち十三観まで
釈迦が韋提希夫人に示した極楽浄土を観ずるための13の方法

■下縁―散善義　十四観から十六観
9種類の往生の様子（九品往生）と当麻曼荼羅織成の由来を記した銘文帯

■中央部―玄義分
説法する阿弥陀仏を中心に、壮麗な極楽浄土の様子を6段に描く

2 来迎引接への憧れ

Ⅰ　平安時代の来迎図
Ⅱ　来迎図の多様な展開
Ⅲ　請来画—海外からもたらされた阿弥陀像—
Ⅳ　請来画の受容と改変

浄土教信仰の主たる関心は、来世、すなわち死んだ後、生まれ変わる世界にあります。極楽往生できるのか、積み重ねた善行の成果はあるのか、人々はその答えを、臨終の瞬間に見出そうとしました。それは経典に、臨終の時、紫雲たなびき妙音妙香に包まれる中、阿弥陀如来が雲に乗って来迎し、極楽浄土へといざなってくれると書かれていたからです。

源信が寛和元年(985)に著した『往生要集』は、そのことをわかりやすく説き明かしており、後の日本人の思想や文化に大きな影響を与えました。そのような思想から生まれたとされる仏画の中でも、臨終に際し阿弥陀如来の現れるさまを描く阿弥陀来迎図は特に好まれました。それはさまざまなバリエーションを生みながら、近世まで多くの作品が製作し続けられました。また、それらとは異なったスタイルで描かれた中国や朝鮮半島の作品も大切に伝承され、それを模したものも作られました。

石川県指定文化財　阿弥陀三尊来迎図　石川県七尾市　西念寺

阿弥陀三尊来迎図

阿弥陀仏が観音菩薩・勢至菩薩を従えて、斜め右下へ向かって来迎する様を描いたもの。斜め向きの姿で鎌倉時代以降に多く作られた。

■阿弥陀如来
両手の第1指、第2指を捻じて来迎印を結ぶ。来迎雲上の踏割蓮華に立つ。

■観音菩薩
宝冠に化仏をいただき蓮台を持つ。少しかがんで来迎雲上の踏割蓮華に立つ。

■勢至菩薩
宝冠に水瓶をいただき合掌する。少しかがんで来迎雲上の踏割蓮華に立つ。

武生市指定文化財　阿弥陀二十五菩薩来迎図　福井県武生市　正覚寺

阿弥陀二十五菩薩来迎図

来迎図の一種で、阿弥陀如来と二十五菩薩が自然景を背景にして、右下の家屋にいる往生者のもとへ来迎する様を描いたもの。
(本図には自然景、家屋、往生者は描かれていない)

■阿弥陀三尊
阿弥陀三尊来迎図と同じ図様。

■二十五菩薩
観音・勢至を含めて二十五菩薩で描かれるものや、二十七菩薩に描かれるものなどがある。楽器を奏でる姿や舞をおどる様子で描かれる。

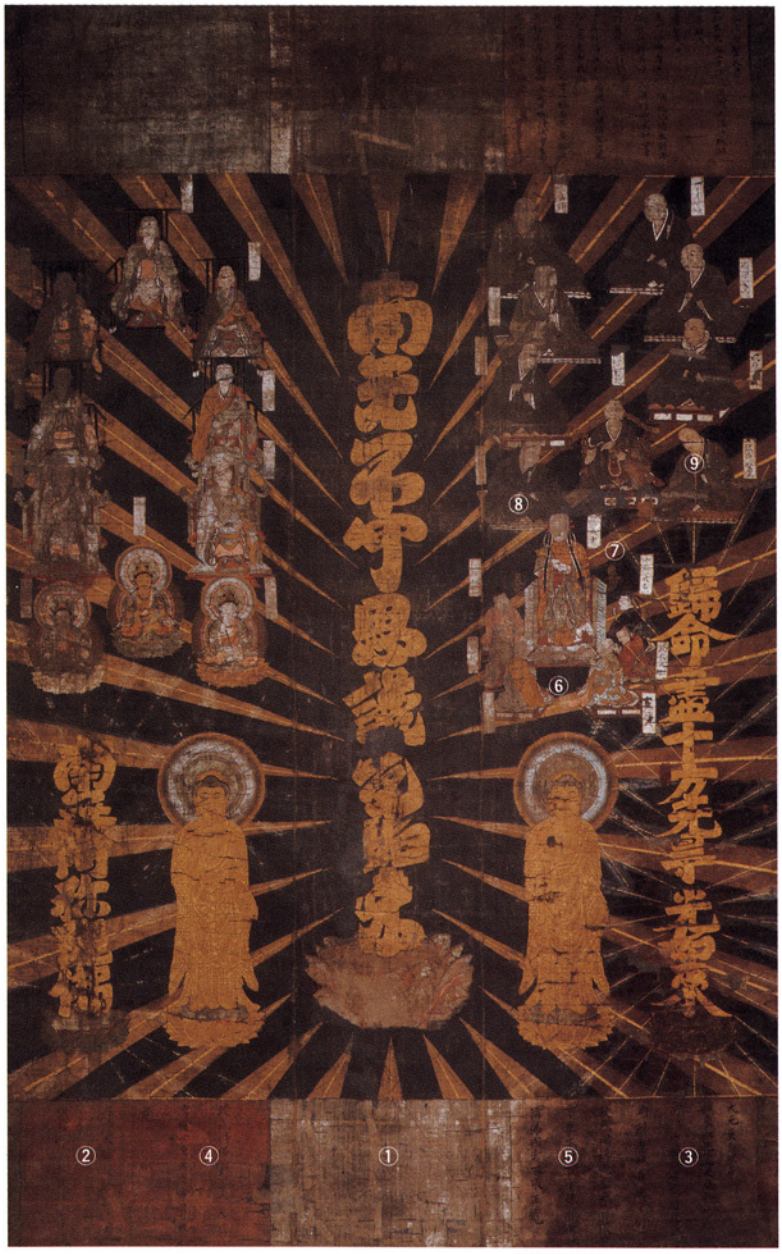
3 さまざまな浄土教信仰の造形

浄土教信仰では阿弥陀仏の来迎図以外にも、様々な形の絵画や彫刻が作られました。

例えば彫刻には、偏袒右肩に定印を結ぶ阿弥陀如来坐像があります。これは『往生要集』以後の思想とは異なる密教の曼陀羅世界に基づくものとされます。特に仏師定朝の作った阿弥陀像は、それ以後の造立の規範となりました。一方、像高およそ3尺（約90センチ）ほどで、来迎印を結び、踏割蓮華に立つ姿に表される阿弥陀如来立像が、鎌倉時代以降多く作られるようになりました。造立にあたっては、勧進聖の活動のもと、多くの人々から寄進が集められ、寄進者の名を記した「結縁交名」が像内に納められることもありました。

絵画では、親鸞が臨終時だけでなく「信心が定まったときに浄土への往生が決定する」と説いた教えに基づき、浄土真宗の人々によって名号と祖師像が一体となった「光明本尊」が生み出されました。

さらに、阿弥陀如来の他にも、観音菩薩や、地獄に落ちた衆生の救済に現れると説かれる地蔵菩薩などが多くの信仰を集め、また聖徳太子は日本の浄土信仰の祖師と仰がれ、多くの仏教美術が残されました。



光明本尊　石川県白山市　本誓寺

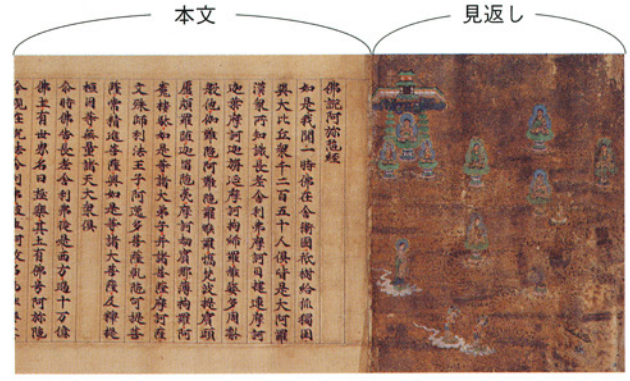
光明本尊

初期真宗教団で本尊とされた絵画。名号から放たれる光明の中に、釈迦・阿弥陀如来、インド・中国・日本の祖師達を描いたもので、絵系図の意味合いも持つ。主に鎌倉時代後期から室町時代に作られた。

① 九字名号
② 六字名号
③ 十字名号
④ 釈迦如来
⑤ 阿弥陀如来
⑥ 聖徳太子
⑦ 源信
⑧ 法然
⑨ 親鸞

4 経典の荘厳

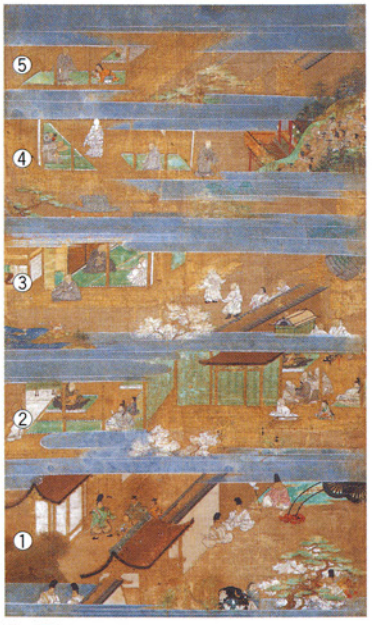
平安時代後期には経典を様々に荘厳して書写することが貴族の間で流行しました。奈良時代には主に鎮護国家のために行われていた写経が、末法思想や法華経信仰、浄土教信仰などの広がりによって、個人の利益を目的としたものに変化を遂げたのです。法華経に経典を受持、読誦、書写することが作善になると記されていたことも手伝い、見返しに経意絵を描き、紺紙に金銀泥で書写する紺紙金泥経、本文から表紙や軸まで金銀や水晶、金具などで装飾したきらびやかな経典がつくられるまでになりました。浄土三部経や阿弥陀経など、法華経以外の経典も数は少ないものの、同じように書写されています。



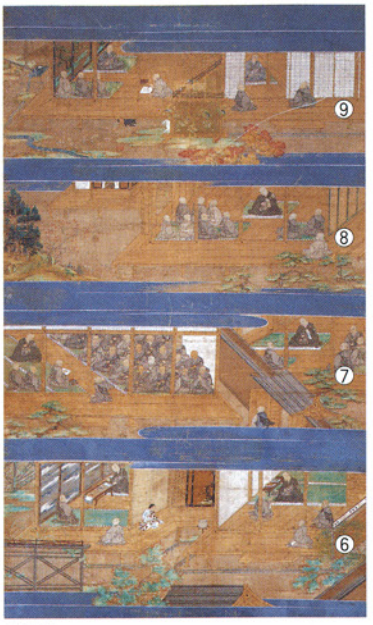
福井県指定文化財　佛説阿弥陀経（浄土三部経のうち）
福井県丸岡町　称念寺

5 北陸ゆかりの高僧、聖

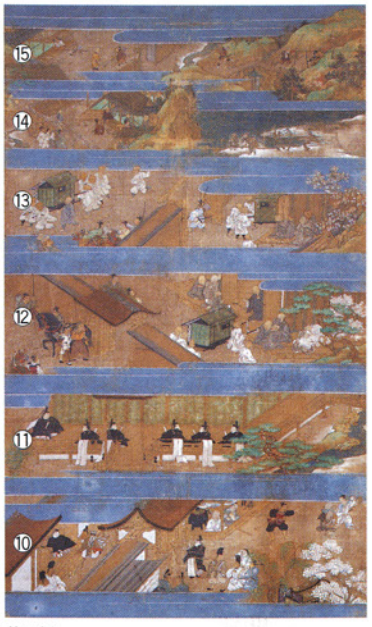
大寺院が大きな力をもち、物流をも支配した中世に、北陸は中央に最も近い生産地の一つであり、さらに北の土地から運ばれてくる産物の中継地として重要な地域でした。そんな中、布教の拠点の形成や寄進を目的として、さまざまな聖たちが北陸を訪れました。例えば、建暦2年(1212)に没した法然のために造像された阿弥陀立像への勧進が北陸でも行われ、正応3年(1290)には一遍の後継者他阿真教が、越前国府の惣社へ参籠した後、託宣を得てここから賦算を始めました。如道(如導、真宗三門徒派祖)、信性(和田本覚寺)、行如(福井興宗寺)といった親鸞の門徒が三河から越前へ入って道場を開いたのもこの頃です。応長元年(1311)には如道のもとへ覚如が訪れ、親鸞の「鏡御影」(国宝・西本願寺蔵)を掲げて『教行信証』の講義を行っています。その後吉崎を拠点とした蓮如や、朝倉氏の帰依を受け、たびたび一乗谷を訪れて説教を行った真盛らもその一人です。



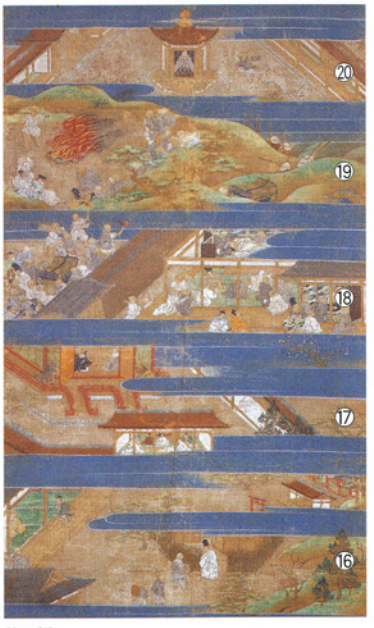
第一幅



第二幅



第三幅



第四幅

石川県指定文化財　親鸞聖人絵伝　石川県加賀市　専稱寺

親鸞聖人絵伝

親鸞の伝記「善信聖人親鸞伝絵」(康永本・東本願寺蔵・重要文化財)から、より多くの人が一度に鑑賞できるように、絵巻の部分だけを抜き出して掛け幅形式に描いたもの。四幅本のものが最も多い。

四幅本の基本構成

第一幅

①慈円坊舎門前

②剃髪得度　親鸞9歳の春、慈円について出家、以後比叡山で学ぶ

③吉水入室　29歳の春、法然を吉水の禅房に訪ね、専修念仏の信仰に入る

④六角夢想　六角堂の観音から「行者宿報設女犯…」の偈を授けられる夢を見る

⑤蓮位夢想　蓮位の夢に聖徳太子が現れ、親鸞を阿弥陀の化現として礼拝

第二幅

⑥選択相伝　32歳の時、法然から『選択集』の書写と影像の作成を許される

⑦信行両座　信不退か行不退かという問に、法然と親鸞はともに信不退を選ぶ

⑧信心諍論　念仏の信心について門弟間で論争があったとき法然は親鸞に賛成

⑨入西鑑察　門弟入西房が親鸞の影像製作を許された時、絵師定禅法橋が親鸞を見て、夢に現れた善光寺本願御房と同一人だと驚く

第三幅

⑩内裏門前　⑪内裏会議　⑫法然出発　⑬親鸞出発
越後流罪　35歳の時、専修念仏が禁止され、法然は土佐、親鸞は越後へ流罪

⑭室八島と笠間御坊
流罪赦免の後、関東に赴き稲田に滞在し、多くの人が帰依した

⑮山伏済度　親鸞に危害を加えようとした山伏が親鸞に会って逆に門弟となる

第四幅

⑯箱根夢告と平太郎参上
関東から帰洛の途中、箱根権現の夢告により、社人からもてなしを受ける。常陸の門弟平太郎が、五条西洞院の房に親鸞を訪問した

⑰熊野証誠殿
平太郎が親鸞の指示を受けながら、道中特別の作法もせずに熊野へ参詣したが、熊野権現が敬意を表した

⑱聖人病床と入滅葬送　⑲火葬
弘長2年(1262)11月28日、親鸞遷化

⑳廟堂創立　文永9年(1272)大谷に廟堂が建てられ、多くの門弟が参詣

記念講演会

「浄土教—思想とその表象」
講師　末木文美士 氏
(東京大学大学院人文社会科系研究科教授)
日時　4／24(日)午後2時～(1時開場)
場所　講堂(2階)　定員 60人(当日先着順)

見どころ講座

「浄土教美術みどころ入門」
講師　高瀬裕美(当館学芸員)
日時　4／3(日)午後2時～(1時開場)
場所　講堂(2階)
定員　60人(当日先着順)

展示解説シート　No.10
平成17年3月26日発行

福井市立郷土歴史博物館
〒910—0004 福井市宝永3丁目12-1
電話(0776)21—0489　FAX(0776)21—1489
担当　高瀬　裕美

制作／小川印刷株式会社　design Ys